

平成30年度地域懇談会 結果概要

1 地域懇談会の目的

福島県総合計画「ふくしま新生プラン」及び福島県復興計画の推進に向け、各地域で多様な立場の県民の方々から意見を聴取し、その意見を地域別の主要施策(第4章)をはじめ、政策分野別の主要施策(第3章)、重点プロジェクト(第5章)等の進行に活用する。

2 懇談テーマ

- (1)テーマ1(地域の課題) 地域の課題や必要な施策・取組の方向性など
 (2)テーマ2(県全体の課題) 健康づくり・健康増進に関する課題や取組、方向性など
 ※相双地域のみテーマ「人材確保・移住推進対策」

3 開催地・日時

開催地域	日時・場所	総合計画審議会 出席委員
(1) 県北地域	[日時] 平成30年7月18日(水)13:30~15:30 [会場] 福島県庁北庁舎4階 災害対策県北地方本部室 [主催] 県北地方振興局 [意見発表者] ・菅野 幸子(特定非営利活動法人コミュニティちゃばたけ 理事長) ・関 奈央子(二本松市教育委員) ・菊田 広嗣(一般社団法人もとみや青年会議所 副理事長) ・大槻 栄之(JAふくしま未来伊達地区モモ生産部会 副部会長) ・大槻 博太(大槻電設工業株式会社 代表取締役) ・齋藤 恵里子(恵労働衛生コンサルタント事務所)	今野 泰 委員 (日本労働組合総連合会福島県連合 会長) 岩崎 由美子 委員 (福島大学行政政策学類 教授)
(2) 県中地域	[日時] 平成30年7月6日(金)10:00~12:00 [会場] 郡山合同庁舎本庁舎3階 第1会議室 [主催] 県中地方振興局 [意見発表者] ・大羅 将(玉川村地域おこし協力隊) ・陰山 正弘(陰山建設株式会社 代表取締役) ・轡田 幹子(ふくしま食育実践サポーター) ・久保 優司(ツリークライミング®クラブ どんぐりの芽 代表) ・須藤 基子(鏡石町教育委員会 学校教育相談員) ・濱田 雅博(有限会社みはる調剤薬局 代表取締役)	小林 清美 委員 (一般社団法人福島県婦人団体連合会 会長) 塩谷 弘康 委員 (福島大学 副学長)
(3) 県南地域	[日時] 平成30年7月4日(水)13:30~15:30 [会場] 白河合同庁舎 別棟大会議室 [主催] 県南地方振興局 [意見発表者] ・熊田 芳江(社会福祉法人こころん 常務理事・施設長) ・三森 美智子(公益財団法人福島県栄養士会 県南支部長) ・飯田 浩(有限会社飯田製作所 代表取締役) ・進士 徹(特定非営利活動法人あぶくまエヌエスネット 理事長) ・鈴木 きよ子(おのだなかよし教室 指導員)	瀬田 弘子 委員 (有限会社津六名館 代表) 轡田 倉治 委員 (福島県商工会連合会 会長)
(4) 会津地域	[日時] 平成30年7月3日(火)13:30~15:30 [会場] 会津若松合同庁舎 新館2階 大会議室 [主催] 会津地方振興局 [意見発表者] ・金子 勝之(にしやまブルーベリー園、農家民宿「山ねこ」 代表) ・佐藤 彩乃(SampSon(株) 代表) ・渋川 晴子(ピラティスサロン「クラール」 オーナー) ・高橋 真志(ヨシハラ商会 店主) ・星 憲隆(お弁当の日を広げる会 会長) ・星崎 歩美(裏磐梯観光協会 職員)	遠藤 由美子 委員 (奥会津書房 代表) 伴場 賢一 委員 (一般社団法人Bridge for Fukushima 代表)
(5) 南会津地域	[日時] 平成30年7月19日(木)14:00~16:00 [会場] 南会津合同庁舎2階 会議室 [主催] 南会津地方振興局 [意見発表者] ・五十嵐 アツ子(河井継之助記念館 ガイド) ・佐藤 一夫(大内宿観光協会 会長) ・星 安彦(会津高原たていわ農産有限会社 代表取締役) ・松澤 瞬(NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク) ・室井 いく(株式会社皆川測量) ・渡部 恵子(下郷町観光公社)	瀬田 弘子 委員 (有限会社津六名館 代表) 小野 広司 委員 (福島民友新聞株式会社 編集局長)

開催地域	日時・場所	総合計画審議会 出席委員
(6) 相双地域	<p>[日時] 平成30年7月13日(金) 13:00~14:30 [会場] 環境創造センター環境放射線センター1階 大会議室 [主催] 相双地方振興局 [意見発表者] ・村島 克典 (社会福祉法人福島県社会福祉協議会 人材研修課長) ・林 啓太郎 (公益社団法人福島相双復興推進機構 事業者支援グループ 人材支援課長) ・門間 大樹 (株式会社ビズリーチ 経済産業省委託事業 福島求人支援チーム プロジェクトマネージャー) ・遠藤 寛人 (ハローワーク相双 職業相談部門 統括職業指導官) ・大宮 美咲 (ふるさと回帰支援センター 福島県移住相談員) ・菊地 将兵 (大野村農園 代表) ・菱沼 一郎 (福島国際交流事業協同組合 管理部長)</p>	<p>樋口 葉子 委員 (ふくしま子育て支援ネットワーク 代表世話人) 西崎 芽衣 委員 (一般社団法人ならはみらい) 和田 佳代子 委員 (いわき地域環境科学会 副会長)</p>
(7) いわき地域	<p>[日時] 平成30年7月3日(火)13:30~15:30 [会場] いわき合同庁舎4階 大会議室 [主催] いわき地方振興局 [意見発表者] ・折笠 明憲 (いわき農業青年クラブ連絡協議会 会長) ・立原 めぐみ (いわき商工会議所青年部 副会長) ・中島 幸江 (いわき市健康推進員協議会 会長) ・川田 政雄 (小名浜まちづくり市民会議 副会長) ・鶴沼 英政 (特定非営利活動法人みんなのふく 事務局長) ・馬目 祐市 (いわき市漁業協同組合 副組合長理事)</p>	<p>前澤 由美 委員 (NPO法人いわき緊急サポートセンター 理事長) 森本 恭平 委員 (東日本国際大学 福島復興創世研究所 准教授)</p>

【主な意見】懇談テーマ1(地域の課題) 地域の課題や必要な施策・取組の方向性など

No	地域	発言者	意見等	分野
1	県北地域	意見発表者	放課後等デイサービスとして実施している発達支援放課後クラブは、平成29年度から県の委託事業として実施しており、今年度から町の支援も受けている。町の発達障がいの子どもの持つ母親が安心して生活できるように事業を今後も進めたい。	健康・医療・福祉
2	県北地域	意見発表者	子育て支援事業を県の委託からの委託により進められたことで、安心して実施することができた。訪問や電話で適切な指導をいただいたことは大変ありがたいことだった。	結婚・出産・子育て
3	県北地域	意見発表者	農業者の多くは、自分が作ったものに自分では値段を付けることができない。自分たち自身で一般店舗の有機農産物を扱うコーナーに農産物を置いてもらう仕組みを構築している。	農林水産業
4	県北地域	意見発表者	若者が農業や地域の活性化に参加、挑戦できる環境を整えてほしい。また、それを若者にアピールできる取組があると良い。	地域づくり
5	県北地域	意見発表者	「まちづくり」は「ひとづくり」という思いがある。ハードは既に揃っているので、それをいかに「人が活用するか」という視点で活動している。	地域づくり
6	県北地域	意見発表者	若年層の県外流出の原因を探るためアンケートを実施した。結果を見ると、「地元が好きで、地元就職したい」と考えている高校生が多い。若者の首都圏への流出は、地元就職したい就職先や条件にあった就職先がないことが要因のようである。実践型の復興・創生インターン(復興庁事業)と空き家バンクを活用した起業支援を組み合わせて、職種が増えていくのではないかと。	産業・雇用
7	県北地域	意見発表者	職業間のミスマッチにより、新卒3年以内の離職率が非常に高いという結果が出ている。例えば、現役高校生によるインターンの実施など、前もって職業をよく知ってもらうことで、地元企業への就職のしやすさ(ミスマッチの解消)につながるのではないかと。	産業・雇用
8	県北地域	意見発表者	平成10年の豪雨災害の経験から、遊水池の整備が重要であると考えている。今回の西日本のような集中豪雨により、阿武隈川の本堤防が決壊すれば大きな災害となる。	インフラ復旧・整備
9	県北地域	意見発表者	原発事故から8年目を迎えた。いまだ風評被害が残っているが、ここ2、3年、UターンやIターンにより移住し、地域に根を張って活動される方が増えている。後継者の育成や農業の振興に結びつけていきたい。	定住
10	県北地域	意見発表者	子ども達は福島県出身というだけで大きなハンディを背負っている。子ども達が事実に基づいた説明をきちんと出来るように、放射線教育を充実させる必要があると思う。	教育
11	県北地域	意見発表者	避難者の住所はいつになったら決まるのだろうか。震災から7年が経過し、避難先で家を建てた人もいる。この状況が続けば、地域において摩擦を生みかねない。早めの対応が必要ではないかと。	避難者支援
12	県北地域	意見発表者	2020年オリンピック・パラリンピックでは様々な国から観光客が来ると思うが、Wi-Fiの整備が進んでいない。母国語で情報を得ることができないことは、非常にマイナスであり、整備を進めるべきだと思う。	観光・交流
13	県北地域	意見発表者	桃を作るのは日本一なので、もっと売り方を工夫した方が良いと思う。例えば、お土産コーナーには、2つワンパックで、小さく可愛いパッケージにして置くなど。若者の知恵も借りながら、売り方を考えることも大切だと思う。	農林水産業
14	県北地域	意見発表者	若者の流出を防ぐためには企業誘致が必要だと考える。そのためには、企業が来てくれるような環境を作ることが必要であり、例えば、国に対し、本県に移転した企業の法人事業税を半分にするような交渉はできないものか。	産業・雇用
15	県北地域	意見発表者	災害時の避難場所となる県立高校に、太陽光(電気)、井戸(水)を整備すれば、何かあった場合に役立つのではないかと。	インフラ復旧・整備

16	県北地域	審議会委員	人口減少、超高齢化、少子化は我が国における大きなテーマ。特に本県は3.11がトリガーとなり、ターニングポイントが早まっている。 生産年齢人口の減少に対し、企業のAI化、外国人労働者の活用等の対策が講じられることになるのだろうが、本県の場合は、こうした世の中の動きを別の視点から見ることでも必要ではないか。それは、「自助」「共助」「公助」のあり方を見つめ直すことであり、今後は特に「共助」の領域を増やしていくことが大切ではないか。	地域づくり
17	県北地域	審議会委員	「行政と民間との協働」という視点から、行政は委託すれば終わりではなく、きめ細やかな「伴走者」としての役割が機能しなければ、「共助」の仕組みもうまく働かない。重要なポイントである。	地域づくり
18	県北地域	審議会委員	「地域の魅力とは何か」を学生にヒアリングしたところ、「人の魅力」という回答が多かった。決して「稼げる仕事」を期待して福島に来ているわけではなく、「豊かな暮らしをしたい」という価値観を持った若者や、「地元志向」の若者たちが増えていると感じる。 こういった若者たちの期待に応えられるよう、大人は行政と市民の協働を進める環境を整えていくべきだと思う。	地域づくり
19	県中地域	意見発表者	まちなかに病院跡地や仮設住宅の跡地などが多く見受けられる。民間や行政が協力し、魅力あるまちづくりを進めていくことが必要。	地域づくり
20	県中地域	意見発表者	多くの業界で労働者不足が課題となっている。IoTによるプロジェクトや生産性向上の取組に対しバックアップをお願いしたい。	産業・雇用
21	県中地域	意見発表者	産業のバックアップ(メイドインふくしまの支援)や民間事業者が行う他地域の災害支援活動に対する支援が欲しい。 また、被災県だからこそ、最初に手をあげてバックアップできる県であると良い。	産業・雇用
22	県中地域	意見発表者	県中地域には、県外から来た方に対し、震災の被害状況や復興状況を見せる場がない。そのような場があると良い。	その他
23	県中地域	意見発表者	自社で育英会を設けて子どもの支援をしている。本県では企業による育英会が少ない。実例が見えれば取り組む企業も増えるのではないと思う。	その他
24	県中地域	意見発表者	県産農産物の風評は県内では落ち着いてきたが、県外ではまだ残っていると感じている。風評を払拭していくことが必要。	風評・風化
25	県中地域	意見発表者	林業関係の施策が一般的なものに留まっていると感じる。一般的な施策では林業の振興は難しい。	農林水産業
26	県中地域	意見発表者	森林の整備をしっかりやって欲しい。また、安全確保の観点から、道路脇の木の整備もしっかりやって欲しい。	農林水産業
27	県中地域	意見発表者	再生可能エネルギーの導入・拡大に関してであるが、太陽光や風力の設備は20年程度の寿命だと言われている。20年後に設備を解体し、その場所を元の森に戻すための負担は子や孫の世代にかかることを認識して欲しい。	その他
28	県中地域	意見発表者	林業の担い手を育てる機関があると良い。狭義の林業だけでなく、製材や木材運搬、木質チップ工場など、すべて学べる場が理想。そこで林業の魅力や誇りを魅せられるようにしたい。	農林水産業
29	県中地域	意見発表者	「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」は、体験学習の機会が少ない子ども達が自然と触れ合うことができるので、今後も継続してほしい。	教育
30	県中地域	意見発表者	私の業界でも跡継ぎ問題があるが、跡を継いでいるところはその親が輝いている。いかに夢や希望を見せられるかが大切。	産業・雇用
31	県中地域	意見発表者	外から人を招き入れることも大事だが、いかに人を外に出してあげられるかも重要だと思う。学ぶ機会が少ない。	産業・雇用
32	県南地域	意見発表者	農業人口の高齢化や、若者の流出等が進んでおり、今ある素晴らしい自然と豊富な農業資源を維持するためには、早急に対応することが必要。	農林水産業
33	県南地域	意見発表者	農業で活躍する若者は、他とは違う魅力が一つプラスされている。今までの活動と若者のアイデアを上手くアレンジすることで、素晴らしい地域になっていくのではないかと。	地域づくり
34	県南地域	意見発表者	農作物を作る喜びや地域の資源環境を保全することは魅力的なこと。それを上手く活用することにより新しいスタイルの地域になっていくと思う。	地域づくり

35	県南地域	意見発表者	貴重な資源がある地域に住んでいることを誇りに思い、魅力を伝えていくことが必要。	地域づくり
36	県南地域	意見発表者	県南地方は交通の便に恵まれているが首都圏の人々の多くは知らない。県南地域の良さを県内だけでなく、首都圏の人々にアピールすることが必要。	観光・交流
37	県南地域	意見発表者	自然に接する機会が子どもから大人まで極端に少なくなっており、自然回帰や自然体験を求める首都圏の家族、県内の親子が多いと感じる。	観光・交流
38	県南地域	意見発表者	過疎地域には課題が山積しているが、過疎ならではの可能性があると思う。	地域づくり
39	県南地域	意見発表者	保育士が不足しており、募集をしても入ってこない。保育士学校の卒業生は多いが、仕事に就く人が少ないのは雇用条件(休みが取りにくいなど)に問題があるのではないかな。	産業・雇用
40	県南地域	意見発表者	普通学級では学習できない子が特別支援学級で学習するのは良いことだが、普通学級の教員が対応しているところもある。専門の教員に対応してもらいたい。 また、発達障害の子どもたちが授業を理解し、楽しい学校生活を送れるような地域になって欲しいと思う。	教育
41	県南地域	意見発表者	行政は大企業を誘致したいのかもしれないが、中小企業にとっては脅威である。力のある企業に人材を引き抜かれてしまう。人材派遣会社に求人依頼しても、町工場に紹介できる人はいないと断られる。日本のものづくりを支えているのは9割を占める町工場である。大企業の誘致だけでなく、町工場を生かす支援をして欲しい。	産業・雇用
42	県南地域	審議会委員	県内に優秀な既存企業は沢山ある。同じ予算を使うのであれば、既存企業の雇用を守るような施策を行ってほしい。その方が魅力的な地域づくりができると思う。	産業・雇用
43	県南地域	審議会委員	当該地域には観光資源が数多くあるが、新たな道路が開通してから、隣の地域に向かう観光客に素通りされるようになってしまっている。2、3時間滞在してもらえよう周知が必要ではないかな。行政と民間団体が協力してPRして欲しい。	観光・交流
44	県南地域	審議会委員	地域の企業、首都圏の企業とが連携を図って欲しい。	産業・雇用
45	会津地域	意見発表者	地域の課題解決の糸口として、地域おこし協力隊の能力や若さ、勇気、意識の高さなどに期待している。	地域づくり
46	会津地域	意見発表者	地域おこし協力隊の方に定着してもらうために大切なことは、地元の人が意識を変えること。 また、受入れ自治体は、地域おこし協力隊員の意見を受け止め、施策に生かしていくことが大切。	地域づくり
47	会津地域	意見発表者	行政は移住・定住への支援策について、地元住民と情報共有を図る必要がある。 また、PRを各市町村が単独で行うのではなく、地域として束になって取り組むべきである。	地域づくり
48	会津地域	意見発表者	町外からの移住者に対するサポートは手厚いが、今、住んでいる人へのサポートは薄いと感じる。	産業・雇用
49	会津地域	意見発表者	移住してきた人が頑張っても限度がある。地域の中にも「町をよくしよう」というオピニオンリーダーが増えてくれば、地域の人たちの意識を高めていくことが出来ると思う。 地元の人が新しいサービスを始めるためには、移住者よりも力が必要。後押ししてくれる制度があると良い。	地域づくり
50	会津地域	意見発表者	新しい風も大事だが、地元の人へのサポートも同時に考える必要がある。文化継承などには地元の人意見が必要。	地域づくり
51	会津地域	意見発表者	移住者も地元の人も集まることの出来る交流スポットがもっと増えると良い。	地域づくり
52	会津地域	意見発表者	新たに事業を始める時、宣伝活動に資金も労力もかかる。ここに自治体の協力があれば事業を始めやすくなる。	産業・雇用

53	会津地域	意見発表者	会津には、室内の広い遊び場が少ない。体育館が一般開放デーを設けるなど、子どもの遊び場づくりをお願いしたい。肥満予防にもつながる。	結婚・出産・子育て
54	会津地域	意見発表者	会津は雪が多い地域であるが、自転車の利用率は県内の中で高い。また、サイクリストが旅行したい地域ランキングで会津は全国上位にある。自転車を活用した誘客などが出来ないか。	観光・交流
55	会津地域	意見発表者	蔵のまちで、ここ最近、蔵の解体工事が増えているように感じる。個人の所有物ではあるが、維持・保存を支援する制度が出来ないものか。	観光・交流
56	会津地域	意見発表者	かつて子どもの頃に遊んでいた河川敷は、今は藪で覆われてしまっている。子どもが川を身近なものとして遊べるようにして欲しい。	地域づくり
57	会津地域	意見発表者	地域の魅力発信において、会津の名前が、古事記、万葉集、平家物語などにも出てくることなど、歴史を知り、ストーリー化してPRすることも大切。	観光・交流
58	会津地域	意見発表者	インバウンドでは只見線沿線の風景が人気であるが、風景に加え、伝統野菜や伝統料理など食文化もPRしたら良いと思う。	観光・交流
59	会津地域	意見発表者	この地域は高校の中退率が県内で一番低い。教育も地域の良さとしてPRできると思う。	教育
60	会津地域	意見発表者	自治体の人口減少対策を知らない人が多い。せっかくの企画も伝わらなければもったいない。もっと発信・訴求に力を入れるべきだと思う。	その他
61	会津地域	意見発表者	若い世代を惹きつけるためには、やりがいのある仕事をつくり出すことが大切。例えば、東京でIT技術を身につけた人が、その延長線上で働ける職場が地域にあると良い。	産業・雇用
62	会津地域	意見発表者	会津には魅力的な資源がたくさんある。今ある魅力を磨いて発信することに魂を込めれば、もっと人が来ると思う。	観光・交流
63	会津地域	意見発表者	民間レベルで行っている小さなイベント(マルシェ等)がたくさんあるので、支援してほしい。	その他
64	会津地域	意見発表者	各市町村の取組について、他の市町村ももっと関心を持つべき。単発的な点から、線や面にしていけないと交流人口は頭打ちする。	その他
65	会津地域	意見発表者	移住の判断材料の一つとして、首都圏と大差のない教育が受けられるかどうかということもある。	教育
66	会津地域	意見発表者	地域に一流の指導者がいるが、地元ではあまり知られておらずもったいないと感じている。市民が教育に対する意識のレベルを上げていく必要があるのではないか。	教育
67	会津地域	意見発表者	若者が地元に残ってほしいというのは分かるが、中央を見る、外を見るということも大切。	教育
68	会津地域	審議会委員	行政は民間の活動に対する理解が足りないのではないかと感じている。民間の活動に対する行政の後押しが欲しい。助成だけでなく、広報もしてほしいとの意見があった。	その他
69	会津地域	審議会委員	遊びながら第六感を醸成したり、距離感を覚えたり、危機感を体感するような教育が欠如している。	教育
70	会津地域	審議会委員	2025年問題は大きな課題。観光を支えているのは、農・水・林の一次産業であり、今、地域を支えているのは退職した団塊の世代である。この方たちは行政の目の届かないところで支えている。 2025年にはこの方たちが沢山いなくなる。どのような企画、手段をとっても、地域の受入体制は成り立たなくなる。行政は、住民の意見を取り入れながら、仕組みの転換に向けて取り組んでいく必要がある。	地域づくり
71	会津地域	審議会委員	只見線については、多額の補助金やイベントによる一過性の集客で本当に地域が潤い継続できるのか、真剣に考える必要がある。	観光・交流
72	会津地域	審議会委員	地域での教育がない。部活動に拘束されたりなど、管理する教育の中で遊びが抑えられている。山の中で遊び、危機感を自分で体得していくという経験が欠如している。山の中で遊ぶのが大事か、漢字を一つ覚えるのが大事か、都会と同じ教育が必要なのか、改めて考える必要があると思う。	教育

73	会津地域	審議会委員	本日出された地域課題の意見は全国と同じもの。この地域の課題としては、所得や平均寿命などがでないか。これらについて、どのように対応していくか議論していくことが大事なのではないか。	その他
74	会津地域	審議会委員	県内の約100名の地域おこし協力隊員に力を入れるよりも、県内にいる約2万人の若者が戻ってくるための政策を整備する方が大事ではないのか。	その他
75	会津地域	審議会委員	情報発信については、提供側が情報を伝えるだけになりがちである。もっと求める側のニーズに合わせる必要がある。	観光・交流
76	南会津地域	意見発表者	今ある優れた景観を守りながら、体験型のイベントなどにより観光客を呼び込みたい。戊辰150年を契機に、さらに観光に力を入れていきたい。	観光・交流
77	南会津地域	意見発表者	いわきではサンシャインマラソンやトライアスロン等の大会が開催されている。年々参加のハードルが下がっており、短い距離や親子で参加から始める人も多いようである。まちの中でランニングなどの運動をしている人を見かけ、インバウンドの視点で滞在時間をいかに延ばすかを考えると、徒歩散歩コースや自転車などのアクティビティが必要だと感じている。	観光・交流
78	南会津地域	意見発表者	ヨーロッパでは農業も景観であるということで、国による助成金制度がある。景観を守るため、観光地の観光受益者が少しずつ負担金を農業法人に出し、農業法人が生産した作物を観光地で提供する仕組みが出来ないものかと考えている。	農林水産業
79	南会津地域	意見発表者	高齢化が進み地域の担い手も少なくなってきた。基幹産業である農業や林業の魅力を高めながら、担い手の確保に努めていきたい。	産業・雇用
80	南会津地域	意見発表者	メディアでの芸能人によるイメージづくりに貢献することは、賞を貰うよりも消費者に対する影響が大きい。販売促進に繋がるのではないか。	農林水産業
81	南会津地域	意見発表者	平成27年の豪雨災害以降、河川改修はだいぶ進んできているが、不安な箇所もあるため、引き続き対策をお願いしたい。	インフラ復旧・整備
82	南会津地域	意見発表者	獣被害、特にシカによる被害が加速化している。道路への飛び出しによる事故も懸念されるため、対策が必要。	農林水産業
83	南会津地域	意見発表者	道路の迂回ルートがなく、災害時や救急搬送を考えると不安である。道路網の整備は暮らしに直結している。整備をお願いする。	インフラ復旧・整備
84	南会津地域	意見発表者	自然との距離感が心地良い地域である。だが、これだけの自然に囲まれながら、地域には紹介できるような観光地がない。若者が都市部へ遊びに行ってしまうため、森林をフィールドとして活用した自然遊びを提案したい。大学生と連携して発掘していこうと考えている。	観光・交流
85	南会津地域	意見発表者	森林は伐った後の使い道を考えなくてはならない。地域に高い加工技術を持つ木工職人がいる。魅力ある家具や木のおもちゃ、住宅デザイン関連の部材など、売れるものづくりを目指している。	農林水産業
86	南会津地域	意見発表者	大きな観光地の周りにも周遊スポットがあれば、地域への宿泊も増えるのではないか。各町の観光資源をつなぎ、広域的な観光コースを構築できれば良いと思う。	観光・交流
87	南会津地域	意見発表者	IT関係など、空き家を活用して仕事ができる選択肢があれば、移住につながるのではないか。	定住
88	南会津地域	その他	東京では全国のようなイベントが実施され、多くのチラシが並んでいる。その中から福島を選んでもらうためには見せ方に工夫が必要。	定住
89	南会津地域	その他	他地域からの新しい人の意見と元々地域にいる人の意見を融合して、地域づくりにつなげていけるよう、交流会を何度も実施することが重要。	定住
90	南会津地域	審議会委員	自然の中での遊びについては、子どもの頃からの経験が大事なだろうと思う。西日本では子どもの遊びを含めた教育で地域おこしに成功している町がある。	教育
91	南会津地域	審議会委員	観光振興にはストーリー(物語性)が必要。歴史関係の観光資源などは戊辰150年以降も力を入れていくべきだと思う。	観光・交流
92	南会津地域	審議会委員	どこの観光地も観光客はじりじり減っていくものである。設備投資もなかなか難しい。インスタ映えや和の要素を取り入れながら観光客を呼び込むことはこの地域では重要。	観光・交流

94	南会津地域	審議会委員	交流人口を増やしていくためには、伝統を守る中にも小さな驚きがあっても良いと思っている。	観光・交流
95	南会津地域	審議会委員	昨今、様々な働き方が求められている。例えば、必ずしも一つの仕事でなくとも、期間就業の兼業で働くということも働き方の一つのあり方ではないか。働き方に新たな視点を入れるという工夫で、好ましい職場環境をつくり出すことも出来るのではないか。	産業・雇用
96	南会津地域	審議会委員	文化、デザインなどにもっと価値を付けていくことが大事だと考えている。	地域づくり
97	南会津地域	審議会委員	二地域居住については東京対地方で語られるが、居住のベースが南会津で、県内の他の地域で働くということもあるのではないか。	定住
98	南会津地域	審議会委員	集落の美しい景観など何気ないものに、外から来た人は住んでいる人の心を感じて感動する。地元にいると気付かないようなものを大切にすべき。	地域づくり
99	相双地域	意見発表者	福島県で外国人技能実習生(ベトナム)受入事業を開始して3年弱。現時点で30社で80名を受入れ、年内には合計200名ほど入国の予定。 介護の場合、利用者・スタッフともに人との接点が多いため、日本側が高い言語習得レベルを入国条件としており、大きなネックとなっている。	産業・雇用
100	相双地域	意見発表者	仙台や東京方面からの介護職バスツアーを実施予定。毎回数名の応募がある。ウェブ・紙媒体で広報を行っているが、関心ある方のリーチが難しい。	産業・雇用
101	相双地域	意見発表者	南相馬では有効求職者数が震災前の3分の2程度まで減少しており、さらに高齢者の割合が非常に高いのが特徴的。一方で求人数は高止まりの状態が続いている。 相馬、新地では概ね震災前の数値に戻りつつある。	産業・雇用
102	相双地域	意見発表者	かつてはハローワークで募集をかければ人が集まったが、現在の採用市場はアドバンテージが逆転しており、なかなか人が集まらない。昔と違い、今は求職者が有利な状況にある。昔からのやり方を脱却し、情報発信する必要があると思い始めた企業から採用が決まっていく傾向(二極化)がある。	産業・雇用
103	相双地域	意見発表者	企業はとりあえず賃金を上げることでしかPR出来ておらず、時給が上がっている。長い目で見れば、地域で時給合戦にならないよう情報発信出来ることが今後の展開として望ましい。	産業・雇用
104	相双地域	意見発表者	看護職は病院の施設状況やキャリアアップに関心が高い。介護職はどちらかと言えば日常生活(車での送迎があるか等)に関心が高い。 都会から人を呼んできても、このようなことで辞めて戻ってしまう人が多い。この部分をフォロー出来れば、もう少し辞める人が少なくなるのではないか。	産業・雇用
105	相双地域	意見発表者	東京の移住相談窓口での相談者の約半数は20~30代。最近の傾向として、福島県出身者や、福島県と何らかの縁がある方が多い。	地域づくり
106	相双地域	意見発表者	移住希望者について、いずれの世代にも共通しているのは「地域の役に立ちたい」という想い。一方で、地域の側からはマッチング出来るような情報発信が十分ではないと感じている。 どの地域でどのようなバックグラウンドを持った人ならば活躍できるというような具体的な情報を出してもらえれば、移住先を探している方に検討いただくきっかけとすることが出来る。	地域づくり
107	相双地域	意見発表者	震災後に地元に戻り、新規就農した。県外からの短期研修の受入も行っているが、この地域で就農を進めても一歩引かれる。 新規就農者を増やすためには、成功例をつくり、次の世代に見せることが重要だと考えている。また、若い人は大規模農家や農業法人に魅力を感じている人は少ない。ブランド化や生きがいといったところに魅力を感じるので、その流れをつくってあげたい。	農林水産業
108	相双地域	意見発表者	50代で新規就農を希望される方も農園に来られるが、新規就農補助金の対象が40代前半頃までとなっており、対象外となってしまう。40代後半や50代でもまだ若い。ここを支援する制度があったら良いと思う。	農林水産業
109	相双地域	意見発表者	農家は作物を育てることには熱心だが、売るところは弱い。そこを支援してあげられないか。	農林水産業

110	相双地域	審議会委員	移住者の立場から、福島で働くには決定的なものが必要だと考える。福島でなくても出来る仕事であれば、他に求めていく。地域ならではの仕事、復興に役立っていると実感できる仕事が求められる。	地域づくり
111	相双地域	審議会委員	移住者が地域で暮らすためには、地域になじめるかがポイント。地域とうまく合わなかったり、人との関わりがなかったりという理由から結果的に移住先から去る人も多い。継続的に働いてもらうためのサポート体制が必要だと思う。	地域づくり
112	相双地域	審議会委員	県内に避難していた知り合いが地元に戻られた。ずっと暮らしてきた場所には愛着、安心感がある。住民の方々が還ってきやすい状況をつくってあげることが大切。	避難者支援
113	相双地域	審議会委員	魅力の再認識(PRできるところに企業自らが気づくこと)と、それを発信することが大切だと感じている。自分ではそれに気づくことは難しいので、誰かにコーディネートしてもらえれば、うまくいくのではないかと思う。 地域の魅力を把握したうえでコーディネートできる人が必要。市町村ごとにいると良いと思う。	産業・雇用
114	相双地域	審議会委員	少しずつ地域に活気が戻ってきていると感じる。なお、人材確保、まちの賑わいの問題は相双だけでなく、いわきも含め浜通り全体の課題である。	産業・雇用
115	いわき地域	意見発表者	米や野菜の放射性物質検査の必要性は理解しているが、いつまで実施するのか。米全量検査は高齢者には体力的な面で負担が大きい。出荷分だけにするなど、緩和策を検討してほしい。	農林水産業
116	いわき地域	意見発表者	地域の方はモニタリングについてある程度知っているが、県外の方は同じ農業者であってもモニタリングの事実を知らない。PR不足を感じている。	農林水産業
117	いわき地域	意見発表者	子どもの食育に関して、子どもたちが土に触れられる機会を作してほしい。小学生の中には稲穂が分からず、お米が白い粒のまま出来ていると思っている子も多い。	農林水産業
118	いわき地域	意見発表者	6次化に取り組んでいるが、施設整備の負担が大きい。安く利用できる施設があると良い。	農林水産業
119	いわき地域	意見発表者	ほ場整備において、名義変更されていない農地があることで挫折してしまうケースが少なくない。書類作成の補助や、国に対して法整備の依頼や働きかけをお願いしたい。	農林水産業
120	いわき地域	意見発表者	子ども達に経営や商売を学んでもらうため「ジュニアエコカレッジ事業」を実施している。これは2万円を出資金として、地元産商品を扱う商社のマネジメントを行う取組であるが、メンバーや資金不足といった課題がある。	産業・雇用
121	いわき地域	意見発表者	美容やハンドメイドなどの分野で女性の個人事業主が増えていると感じるが、それだけでは生活が成り立たないのが現状。 女性の事業主が増え、まちづくりに関わる人材が増えてほしい。	産業・雇用
122	いわき地域	意見発表者	いまだ風評被害が拭い去れない福島県・いわきだからこそ、形のないものの魅力をさらに増やしていくこと。「あの人に会いたい」から福島を訪れる。人と人との交流からまちの活性化を図ることが大切。	観光・交流
123	いわき地域	意見発表者	地元や首都圏でのイベント、シンポジウムなどに参加し、地元の水産物の風評払拭に努めている。また、地域の名産でもある貝焼きのPRや、地域資源(例:アカモク)の掘り起こしなどに取り組んでいる。	農林水産業
124	いわき地域	意見発表者	震災以前から磯焼け(海岸に生える海藻が消失する現象)問題に取り組んでいる。今後も行政の支援をお願いしたい。	農林水産業
125	いわき地域	意見発表者	復興が進み、本県水産物の安全・安心のPRが広く周知されてきたためか、アワビの密漁が目立つようになってきた。防波堤が出来たことは良いが、監視の目が届かなくなった。監視カメラ、密漁対策の看板等の支援をお願いしたい。 なお、密漁対策の一環として、水産エコラベルを伏したアワビタグによる流通を計画している。	農林水産業

126	いわき地域	意見発表者	小名浜地区にはかつてない公共予算が投じられ、ハード整備は急ピッチで整いつつあるが、交流人口拡大の動きは連動していない。 観光人口は依然として震災前の6～7割程度で推移しており、昨年度も一昨年と比べて1千人減、4年連続で減少している。	観光・交流
127	いわき地域	意見発表者	6月にグランドオープンしたショッピングモールに期待しているが、一方で、震災前以上に人が来れば駐車場が足りなくなる心配がある。 また、ショッピングモールから小名浜のまちなかへの人の流れづくりを考える必要がある。	地域づくり
128	いわき地域	審議会委員	総合病院が現在建設されているが、運営や医師確保などの面で不安がある。県立病院がない地域であり、県には強力な支援をお願いしたい。	健康・医療・福祉
129	いわき地域	意見発表者	海を背負った地域であり、その恩恵を最大限に生かしたまちづくりを目指していきたい。漁業(漁港)、工業港、観光すべてを含むまちであり、それぞれを活性化させたい。	地域づくり
130	いわき地域	意見発表者	小名浜への交通手段は車が主であるが、車以外の交通手段があればサッカースタジアムの建設等も可能ではないか。泉から小名浜までの鉄道建設を検討できないか。	インフラ復旧・整備
131	いわき地域	意見発表者	復興公営住宅の支援をしている。今後、家賃の減免終了後に退去する方が増えるのではと思う。入居者の中には高収入の方もおり、自治会の役員をしている方も多い。これらの方が退去すれば、自治会活動の低迷が懸念される。	避難者支援
132	いわき地域	審議会委員	人の問題と文化の問題に分けて考えてはどうか。現在の自治会活動は人に依存していると考えられる。今後は文化をつくるのが大切である。 場をつくること、カテゴリー(被災者、避難者など)に分けないこと。目的ベースでの検討、情報共有に対する支援を行ってはどうか。	避難者支援

【主な意見】懇談テーマ2(県全体の課題) 健康づくり・健康増進に関する課題や取組、方向性など

No	地域	発言者	意見等	分野
1	県北地域	意見発表者	自分自身の健康について子どもの頃から学ぶことが大切であり、肥満の子ども達への具体的な食生活改善サポートなどが必要だと考える。	健康・医療・福祉
2	県北地域	意見発表者	スポーツの取組については、少年団等に所属してスポーツをしているかどうかで、子どもの健康状態の差が大きいと聞く。一方で、そうした団体に所属することで体を壊す子どももいる。全体的にきめ細やかな対応が必要だと思う。	健康・医療・福祉
3	県北地域	意見発表者	健康に興味がない人に対して、いかにアプローチするか。健康関連イベントに興味がないと行かないので、例えば音楽イベントに来ている人達にアプローチする等が必要。「スマホで、ふくしま旅気分」の取組は素晴らしい。 我々の世代や、我々の親の世代を動かすためには、親子で参加できるイベントが有効だと思うので開催していただきたい。	健康・医療・福祉
4	県北地域	意見発表者	日々の食事が基本である。昭和の食事は乳製品は不足していたが、野菜類や根菜類の摂取が多かった。乳製品の不足は味噌汁が含む乳酸菌で補っていた。昭和の食事に、乳製品や肉類を加えれば理想の食事になると思う。	健康・医療・福祉
5	県北地域	意見発表者	健康について良い情報も悪い情報も溢れている。学校教育や社会教育において、正しい情報を発信してほしい。	健康・医療・福祉
6	県北地域	意見発表者	自社の取組として、健康診断の結果を奥様宛てに送付している。これにより、本人の健康状態がご家族に伝わる。 また、定年(60歳)になった社員に対し、お祝いとして脳ドッグをプレゼントしている。仕事を続ける場合は、65歳、70歳と5年ごとに希望者に対して半額補助を行っている。	健康・医療・福祉
7	県北地域	意見発表者	仕事から「工期」という特殊性があり、ときには残業せざるを得ないことがある。社長が毎日、従業員の残業報告書をチェックし、職場全体の業務量を平準化するために参考になっている。	健康・医療・福祉
8	県北地域	意見発表者	福島県では血中脂質の異常所見が非常に多い。これはメタボリックシンドロームと関係しており、心疾患、脳血管疾患に繋がっていると思われる。	健康・医療・福祉
9	県北地域	意見発表者	定年後の再雇用も増えており、事業所は健康診断結果に基づき、面談等の事後措置を十分に実施することが必要。	健康・医療・福祉
10	県北地域	意見発表者	健康事業所宣言への参加事業所が増加していることは、経営トップの理解が進んでいるということであり、今後も期待したい。 健康づくり活動には、時間や経済的な制約、労働者の興味の問題があり、推進することが難しい面があるが、「健康宣言」は企業の安全方針にも反映されるため、良い取組である。 なお、労使の情報共有と計画的な実行という視点が重要である。	健康・医療・福祉
11	県北地域	意見発表者	発達障害への対応が企業でも増えてきている。本人が社会に出ても対応できるよう、できるだけ早期(子どものうち)に専門医に診てもらい、家族とともに特性を理解することが重要である。	健康・医療・福祉
12	県北地域	意見発表者	医療に関しては、まず、がん検診の受診率を向上させることが必要である。労働者個人の自主的な受診としている事業場が多いため、受診率が上がらない。企業に対し、市町村が行っている施策をもっとPRすべきだと思う。	健康・医療・福祉
13	県北地域	意見発表者	病気になればまずは治療優先であるが、退院する頃には経済面での相談が増える。疾病を抱えながら、仕事ができる体制づくりが必要だと思う。	健康・医療・福祉

14	県北地域	審議会委員	健康について、最近は「自己責任」の風潮があるが、本日の「子どもを巻き込む」という話は参考になった。一つ一つの繋がりで、さまざまな要素を巻き込みながら個人の健康を守っていくことが重要であり、ソーシャルキャピタル(社会関係資本)の豊かな地域だからこそ、個人の健康が維持されていく。一人一人の健康に向け、地域社会、個人、市民、企業が連携して取り組んでいきたい。	健康・医療・福祉
15	県中地域	意見発表者	「健康」、「元気」とはどういうことかを知らない人が多い。まずは、これを明確化することが必要。 また、震災を経験した福島県だからこそできる「健康づくり」があるのではないか。他県で出来ることと、福島県で出来ることは違うと思う。	健康・医療・福祉
16	県中地域	意見発表者	健康づくりとともに、高齢者にとっては「生きがい」や「やりがい」を作ることが大切。例えば、資格取得を目指すことで学んだことを孫に伝えることも生きがい、やりがいとなる。	健康・医療・福祉
17	県中地域	意見発表者	地区サロン等で実施する運動指導に参加する高齢者が固定化されている。地域住民が気軽に立ち寄ることができるコミュニティスペースなど、高齢者同士の仲間づくりの場が必要。	健康・医療・福祉
18	県中地域	意見発表者	大人になってから食習慣を改善するのは難しい。子どもの頃から薄味、果物の摂取などの食習慣を定着させることが重要。	健康・医療・福祉
19	県中地域	意見発表者	県の事業で小学校教員を対象とする食育講座があるが、このような場(食育に対する教員の意識改革)が増えることを願っている。	健康・医療・福祉
20	県中地域	意見発表者	高齢の方は健康への意識が高いが、40代から60代の方、特に企業の方へのアプローチが必要だと思う。	結婚・出産・子育て
21	県中地域	意見発表者	地域創生総合支援事業(サポート事業)の健康枠による健康づくり活動への継続的な支援をお願いする。	地域づくり
22	県中地域	意見発表者	健康でいるためには、気持ち(夢、誇り、希望)の部分が大事だと感じている。皆が生きがいを持ち、誇りを持って明るく暮らせる地域であることが大切。	地域づくり
23	県中地域	意見発表者	健康寿命と平均寿命との比較が必要。女性の場合約10年の差がある。この期間を短くしていくことが大切。	健康・医療・福祉
24	県中地域	意見発表者	地域のスポーツクラブが、シニア世代向けに「ちょいトレ」という肩肘張らずに出来るスポーツや散歩などの豊富なメニューを用意している。 自分も年をとったらやりたいと思えるようなアプローチに感謝している。	健康・医療・福祉
25	県中地域	意見発表者	今までは二次予防(早期発見、早期治療)、三次予防(治療、リハビリ)に力が入られてきたが、これからは「いかに病気にならないか」という一次予防に力を入れるべき。	健康・医療・福祉
26	県中地域	意見発表者	福島だからこそ出来る健康づくりがある。福島県の健康寿命が全国1位になれば、風評払拭にも繋がる。	健康・医療・福祉
27	県中地域	意見発表者	健康サロンなどの行政の取組をいかに民間事業者を引き継いでいくかということも重要。沢山の事業所に協力してもらえると良い。	健康・医療・福祉
28	県中地域	審議会委員	気軽に立ち寄れるコミュニティスペースを活用した仲間づくりの場は、家に引きこもりがちな高齢者にとって外に出る機会が増える。	健康・医療・福祉
29	県中地域	審議会委員	核家族化が進む中で高齢者が一人で社会参加するのが難しい状況にある。現在、3世代交流の活動をしており、継続していきたい。	健康・医療・福祉
30	県中地域	審議会委員	地域、年齢、職業などによって健康に格差が生じる「健康格差」という言葉がある。自己責任だけではないが、一人一人が自分のこととして取り組む必要がある。 本県のメタボ率の高さは、震災以降の福島の現状である。	健康・医療・福祉
31	県中地域	審議会委員	本県の健康づくりの対象が「食」、「運動」、「社会参加」の3つとなっているが、「いやし」を入れてはどうか。	健康・医療・福祉

32	県南地域	意見発表者	食べ物から健康づくりを進めるべき。食が豊かな地域であり、これを生かすべき。 家族と一緒に食事をするのは、子どもの教育にも健康づくりにも非常に大事であり、母親が忙しすぎて子どもの食事を作る余裕がないということは問題である。	健康・医療・福祉
33	県南地域	意見発表者	朝食欠食、肥満、虫歯の3つが子どもの大きな課題であり、それには家庭にも問題がある。課題解決のためには、繰り返しの指導が重要。	健康・医療・福祉
34	県南地域	意見発表者	日常生活を見直すことで様々なことが予防できる。地域には豊かな農業資源がある。これを生かした健康づくりへの支援等を考えてはどうか。	健康・医療・福祉
35	県南地域	意見発表者	企業の特定保健指導を担当している。話を聞かない人は直らないが、話を聞く人は回復が早い。少し気をつけるだけで正常に戻ると思う。 県でも少し気をつけるだけで健康を改善できるということを指導すれば、メタボ率は下がるのではないかと。	健康・医療・福祉
36	県南地域	意見発表者	福島の人には都会の人に比べて歩かない。他県の商業施設等を参考に、まち歩きができる環境づくりを検討してはどうか。	健康・医療・福祉
37	県南地域	意見発表者	食物アレルギーを持つ子どもが増えている。教育や学校給食などでアレルギーを改善させる取組を広げるため、各自治体が特徴ある支援を行うことにより、子どもを持つ家族の移住・定住にも繋がるのではないかと。	健康・医療・福祉
38	県南地域	意見発表者	肥満対策の取組として、学校では、児童に対し医師の受診や食育指導等を行っている。家庭でも子どもたちのために本気で取り組む必要があると思う。	結婚・出産・子育て
39	県南地域	意見発表者	女性も男性と同等に仕事をしており、母親の役割は大変だが、週末に作り置きをするなど工夫をして、小さな頃から母親の味を食べさせることが必要だと思う。	結婚・出産・子育て
40	県南地域	意見発表者	食に関して情報が溢れているが、バランスのとれた食事を摂ることが最も重要。	健康・医療・福祉
41	県南地域	審議会委員	高齢者も仲間とみんなで楽しめるスポーツがあれば医者に行くことも減り、健康的になっていく。高齢者のスポーツを支援して欲しい。	健康・医療・福祉
42	県南地域	審議会委員	健康を維持するには「環境」が重要。家族の目配り等も必要だが、健康を維持するための状況を後押しするのは、県の役割だと思う。	健康・医療・福祉
43	会津地域	意見発表者	医者にお世話になる前に食生活の改善を図ることが大切。毎日の食生活が大事。	健康・医療・福祉
44	会津地域	意見発表者	メタボはお年寄りよりも中年世代に多い印象。歩いた方が良いと思うくらいの近距離でも車に乗る人が多い。	健康・医療・福祉
45	会津地域	意見発表者	バスや電車に自転車をのせて、目的地で体を動かせるような仕組みを作っていく必要があるのではないかと。	健康・医療・福祉
46	会津地域	意見発表者	町のケーブルテレビでお年寄り向けの運動の番組が放送されているが、もっと若い人向けの運動や食事に関する番組があると良い。	健康・医療・福祉
47	会津地域	意見発表者	地元自治体の情報交流アプリにウォーキング機能があるが知られていない。まずは自治体職員などが活用し、効果を試してはどうか。	健康・医療・福祉
48	会津地域	意見発表者	健民パスポートの登録者が増えているが、これは実績に過ぎない。これによって、実際にどのような効果があつたのかを検証する必要がある。	健康・医療・福祉
49	会津地域	意見発表者	ラジオ体操には腰痛や疲労感を軽減させるなどの効果がある。団体や企業に対して実施を促す、あるいは会津独自の体操を開発し習慣化させていくなど、楽しく体を動かすための意識を高めると良いと思う。	健康・医療・福祉
50	会津地域	意見発表者	国土交通省のデータによれば、5キロ圏内の移動は自転車が一番早い。仕事前に有酸素運動をすると脳の活性化につながり、仕事の効率も上がる。県にはぜひ、企業に対して自転車通勤を呼びかけてほしい。	健康・医療・福祉
51	会津地域	意見発表者	健康指標の悪化の要因としては食生活の乱れが大きいと思われる。秋田県や青森県は力を入れている。本県も取り組んでほしい。	健康・医療・福祉
52	会津地域	意見発表者	「知育・徳育・体育」を支えるのは豊かな食育。しかしながら、包丁とまな板のない家庭が増えていると聞く。	健康・医療・福祉

53	会津地域	意見発表者	学校は年間210日ほどあり、このうち10日ほど弁当の日がある。この機会に自分で食材を選び、自分で作るといった「生きる力」を養うことがあっても良いのではないかと。	健康・医療・福祉
54	会津地域	意見発表者	健民カードを知らない人も多い。周知にももう少し力をいれてもよいと思う。	健康・医療・福祉
55	会津地域	意見発表者	県民健康カードは利用者がアプリを動かせる人に限定される。より多くの人が利用できるよう考える必要がある。 また、キャンペーン期間中は一生懸命に取り組むが、期間が終了すると取組を止めてしまう。	健康・医療・福祉
56	会津地域	意見発表者	モチベーションを高める高めるためには、インセンティブに頼るだけでなく、「理想の姿×実現可能性×危機感」を訴えることも必要ではないかと。	健康・医療・福祉
57	南会津地域	審議会委員	高齢化が著しい地域であっても、イコール不健康ということではない。どの地域でも高齢化はどうしても避けられないので、悲観的にならず、「健康が大事である」と前向きに考えるのがよいのではないかと。	健康・医療・福祉
58	南会津地域	意見発表者	地域にある多くの史跡等の観光資源を巡り、運動につなげるとよい。	健康・医療・福祉
59	南会津地域	意見発表者	毎日の運動、食事等の影響をきちんと把握するためにも、継続した体重測定と健康管理が必要。	健康・医療・福祉
60	南会津地域	意見発表者	冬は日照時間も短く、積雪で歩くのが難しくなることが雪国の課題。	健康・医療・福祉
61	南会津地域	意見発表者	病院と地域のアウトドアスポーツクラブが連携して健康対策に取り組んでいる事例がある。参考にしてはどうか。	健康・医療・福祉
62	南会津地域	意見発表者	地域の林道を使ってマウンテンバイクの周遊コースを作るなど、地域の資源をいかした健康づくりができればよい。	健康・医療・福祉
63	南会津地域	意見発表者	一日に摂るべき野菜の量など、食育については子どもの頃から教えていくことが大切である。	健康・医療・福祉
64	南会津地域	意見発表者	長生きも大事であるが、健康な期間である健康寿命を延ばしていくべき。本県は平均寿命と健康寿命とに約10年の差がある。ここを何とかしないといけない。	健康・医療・福祉
65	南会津地域	意見発表者	高齢者には日常生活において、ある程度仕事をしていただいた方が健康に良いのではないかと。	健康・医療・福祉
66	南会津地域	意見発表者	ふくしま健民パスポートの登録者が少ないため、周知に努めるべき。	健康・医療・福祉
67	南会津地域	意見発表者	小さい頃から自分で運動するという習慣づけは一生の財産になる。会社で、皆で運動することでも継続しやすくなる。なお、運動の定義は、日本、アメリカとも「10分以上継続」である。	健康・医療・福祉
68	南会津地域	審議会委員	地方ではスクールバスになってから子どもの体力が落ちてきている。子どもの頃からの体力づくりが大切だと思う。	健康・医療・福祉
69	南会津地域	審議会委員	東京オリンピックで多くの外国人が訪日することもあり、喫煙についての議論は今後避けては通れない。産地である本県だからこそ、しっかりと議論していく必要がある。	健康・医療・福祉
70	南会津地域	審議会委員	乱れた生活リズムを、規則正しい生活と三度の食事といった当たり前の一日の流れに戻すことが必要。その役割を事業所の取組等で実践できればよい。	健康・医療・福祉
71	いわき地域	意見発表者	体を動かすために簡単な農作業をお勧めしたい。最近は肥料袋にそのまま苗等を植え付けて、そのまま作物がなるものも沢山出ているので、誰でも簡単に始められるものも多い。	健康・医療・福祉
72	いわき地域	意見発表者	マッサージサロンを運営しているが、筋肉のない方が非常に多く、運動をほとんどしていない方が8割以上である。普段の生活を少し変えて運動をするということから始めることを勧めている。ウォークビズの取組みも非常に良いと思う。	健康・医療・福祉
73	いわき地域	意見発表者	ピンクリボンを推進する団体を立ち上げて活動している。いわきの乳がんの検診率が非常に低い。乳がんを検診を受けるきっかけ作りをしようと団体を立ち上げた。	健康・医療・福祉

74	いわき地域	意見発表者	健康推進員のボランティア団体に活動している。地域の方々と楽しみながら健康づくりのための正しい食生活や、無理なくできる運動を届けている。	健康・医療・福祉
75	いわき地域	意見発表者	福島県は塩分の摂り過ぎによる高血圧で心筋梗塞による死亡率が全国で最も高い。県が、県民の減塩や野菜の摂取量を増加させることを目的に、家庭訪問やイベントにより声掛けを行う事業、「減塩、野菜を食べよう推進一言運動」を実施している。	健康・医療・福祉
76	いわき地域	意見発表者	健康寿命を延ばすということは、規則正しい食生活、軽い運動、社会参加をすることである。	健康・医療・福祉
77	いわき地域	意見発表者	いわきではサンシャインマラソンやトライアスロン等の大会が開催されている。年々参加のハードルが下がっており、短い距離や親子で参加から始める人も多いようである。まちの中でランニングなどの運動をしている人を見かけることが多くなってきた。	健康・医療・福祉
78	いわき地域	意見発表者	企業の経営者として、社員の健康診断は必ず行っているが、配偶者等までは行き届いていない状態。少しずつでも広げていけたらいいと思う。	健康・医療・福祉
79	いわき地域	意見発表者	ボランティアで市内の公民館等を利用し、リハビリ体操教室を行っている。近くに復興公営住宅が建ったが、避難者の方の参加はない。ぜひ参加してほしいが、情報が全くないため、自ら出向いていくべきかとも考えている。	健康・医療・福祉
80	いわき地域	意見発表者	福島県の健康指数がここまで悪いということを知らなかった。ネガティブキャンペーンではないが、こういった情報をもっと広めていけば、健康を意識する人が増えると思う。	健康・医療・福祉
81	いわき地域	意見発表者	年をとったり、病気などをきっかけに、軽い運動から始める方が多いと思うが、運動というのは習慣なので若いうちから取り組んだ方が良い。	健康・医療・福祉
82	いわき地域	意見発表者	あまり数は多くないが、県民体操を作っている県がある。県の名産品等を取り入れたとてもユニークな体操。福島県もそういったものを作り、県民なら誰もが知っているものが出来れば面白いと思う。	健康・医療・福祉